



Book Review

評者:清水奈穂美

滋賀医科大学医学部附属病院看護臨床教育センター

家でのこと

訪問看護で出会う13の珠玉の物語

著:高橋恵子/定価:1,540円(本体1,400円+税10%)

発行:医学書院/TEL:03-3817-5650



「まんが」を「教材」にする

在宅看護における実習は、地域で暮らす人々の生き方や生活を知り、多様な価値観に触れながら看護を創造することができるものです。しかし現在、新型コロナウイルス感染症の影響で実習の実施が難しいなか、いかにして訪問看護現場のリアルを学生に伝えるかは喫緊の課題となっています。2021年2月に発行された本書は、リアルな訪問看護の現場が描かれており、この本を教材にして、学生の思考力や倫理的感受性を高めるグループワークを行うことが可能です。本書を使って私が行った実践を紹介したいと思います。

「まんが」を使って価値観を揺さぶる

初めて本書を読んだとき、「訪問看護師の絶妙な心の動きと、ケアのありようの重要な部分が描かれている」と感じました。出てくるセリフや語りはどれも短く、それは逆に読み手に多くのことを想像させ、結果として解釈を広げることができます。描写される風景からは、時間の経過や月日の流れ、生活や認識の変化をみてとることができます。特に、第2話の「土管の家」では、主人公の訪問看護師が「当時の私はゴミ屋敷と心のなかで軽蔑していたのだから……」と、過去の自分の考えと向き合う姿が描かれており、個人の価値観がケアに影響を与えていたことを振り返っています。個人の価値観がケアに与える影響、ここに気づくことが倫理的感受性を育むうえで大切なことだと、私は考えます(このエピソードは医学書院のWebサイトで閲覧可能です)。

学生たちは、基礎看護領域で「清潔」や「衛生環境」に関する正しい知識を学んできます。そのため、ここで描かれているゴミがあふれる家に対して、「何もしていないように見える家でのケアは倫理的に間違っている」と感じてしまうようです。

そこでまんがをとおして、気づいたことや感じたことを話し合い“価値観を揺さぶる”ことをしてみました。ただ、初学者が倫理的なことを話し合うのは難しいため、次の2つのステップをふんで段階的に進めます。

ステップ1:自由な気づきを促すアプローチ

まず、事例を示して「対象理解」と「問題解決型思考」と目標志向型思考を考える」グループワークを行いました。ここでも本書を活用します。第6話「私の重み」から在宅酸素療法をしている利用者の「タバコ」に関するエピソードを取り上げ、訪問看護師、利用者、家族のそれぞれの受け止め方を考えてもらいます。そして「利用者や家族が大切にしていることはなんだろう」「その人にとってのタバコの意味を考えてみよう」と問いかけます。すると学生たちは「喫煙は良くないけれども、タバコは夫婦の思い出がつまったもの」であることに気づきます。こうした気づきを促したうえで、次に倫理をテーマに話し合います。

ステップ2:倫理的気づきを促す問いかけ

第2話「土管の家」に戻り、①どんな気づきがあったか、どうして(なぜ)そう思ったのか、②訪問看護で大切



第2話「土管の家」より



第6話「私の重み」より

なことはなんだろう、③看護のプロフェッショナルとして私たちは何をめざすのか、の3点を話し合います。ここでは、学生たちが安心して思いや感情を表出できるように「自分の考えを正直に伝える、まず相手の考えをきく」ことをグランドルールにします。学生の意見が出てこないときは「水をかけられたらどんな気持ちになる？」といったストレートな問いに変えてみます。これは考えを前に進ませる問いかけであり、解釈や考えを優しく促すものです。私はフレームワークをつくり問いかけ(表)を準備しました。

すると、学生たちからは「1年も追い返され続けたら自分だったら耐えられない」や「心の中で思っているマ

イナスなことは意図せず表情や態度で伝わる」といったことが気づきとして挙げられ、自分の感情に向き合い、自分の価値観を知り、ケア提供者側の価値判断が利用者に与える影響を考えるきっかけとなりました。さらに「ありのままを受け入れることが大切」や「静けさの中にある不安や孤独に寄り添う」のように、その人の生きてきた背景や生活環境も含め全体像を見ることが、そしてその人の力を信じて変容を待つことの重要性に気づくことができました。

訪問現場での倫理とは、その人やその家族にとって「何が最も善いことなのか」を考え、自分の行動を判断することです。本書に収められている13編のエピソードは、現場のリアルを伝えると同時に、学生の思考力や感性を高めるのに適していると感じます。加えて、グループワークのあとに、現地指導者にオンラインで現状を伝えてもらえれば、より効果的な実習を行うことができます。みなさんも、ぜひ、これから重要となる地域・在宅看護の学習に『家でのこと』を活用してみてください。

〔表〕倫理的なことを考える問いかけの例(『家でのこと』第2話「土管の家」より)

フレーム(ねらい)	問いかけ	ストレートな問いかけの例(漫画の場面を示して)
①自己の価値観に気づく (個人的価値観)	どんな気づきがあったか どうして(なぜ)そう思ったのか	利用者から水をかけられたらどんな気持ちになる？ 利用者から「帰れ」と1年半も追い返されたらどんな気分？ 他の学生の意見を聞いて、あなたは思った？
②その人の価値観を受け 入れる	訪問看護で大切なことはなんだろう	利用者は最初どんな思いだったのだろうか？ 家の中や、家の周辺はどんな状況？ 訪問看護師は最初どんな思いをしていたのか？ 何がきっかけで利用者は心をひらいてくれたのか？
③看護師としての価値観 に気づく (専門的価値観)	看護のプロフェッショナルとして私たちは何をめざすのか	訪問看護師はどんなかわりをしたらいいのか？ しぐさ、表情からどんな思いがあると思う？ どんな変化がありましたか？ どのくらい時間がかかったのか？ どの場面が好きですか？

*各①～③のグループワークのあとに全体共有をし、考えが前に進んでいるかを確認する。

①～③終了後に、現地指導者から現状を伝えてもらう。最後に今日の学びと今後に活かしたいことについてレポート提出。